

「巨大恐竜 T-Rex（足が取れた）」の修理

2026.2.25
生駒の田中

1. 特徴・外観



- 画像の恐竜は、マテル社の「ジュラシックワールド」シリーズの全長1mほどの巨大な恐竜フィギュアです。
- 手動で口を開けたり、足の角度を変えられますが、電池駆動（電動）ではありません。

2. 故障内容

- 今回の故障は片足が付け根から折れて外れてしまったものです。
- 折れた部品は体内に残っています。



3. 分解と修理

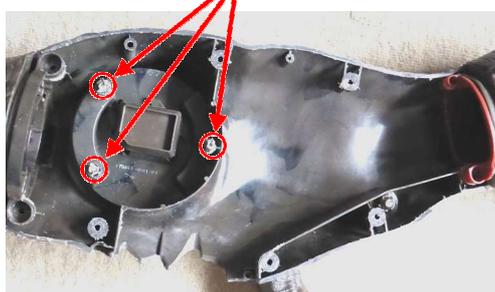
3-1. 本体の分解

- 外れた足は体内に残った部品と接続しないと直せないため、胴体を分割する必要があります。
- しかし、この恐竜の体の外側には組み立てのネジがなくピッタリと合わさっています。
- 従って、分解は胴体の背中と腹の部分を開くしかありません。

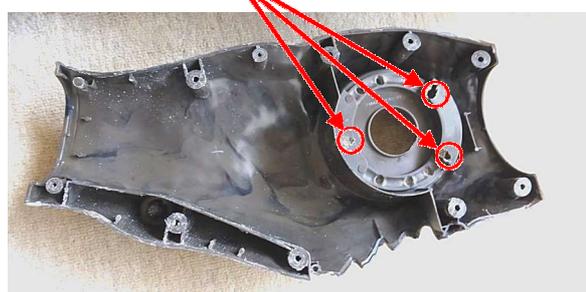


- 胴体のカットにはダメージを最小限にするため薄刃のノコギリを使います。
（今回使用したのは、刃にアサリなしの厚さ0.2mmのノコギリです）
- カットして分かったのですが、胴体は合わせ目の接着ではなく複数のボスが圧入されて組み立てられていました。
- 特に取れていた足の付け根のボスは表面からは深い位置にあり、厚い背金の付いた薄刃ノコギリでは奥まで届きません。
- しかも3本のボスには鉄のネジが入っていました。
（ネジに刃が当たり刃こぼれしましたの、今後同じ恐竜を修理するときは注意が必要です）
- この3本のボスは取れた足の側からドリルで根元を切り離しました。

ネジの入ったボス



外側からドリルで穴を開けボスを切り離す



- 胴体を切り開いた状態が下の写真です。（ほぼ空洞で全長が約110cmあります）

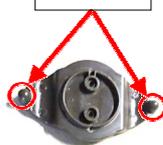


- 外れた片足は体内に残っていた部品と内側から2本のネジで固定されていたことが分かります。
- 中に残っていた部品の突起が胴体の穴に嵌ることで足の角度が3段階に変えることができます。

突起が入る穴



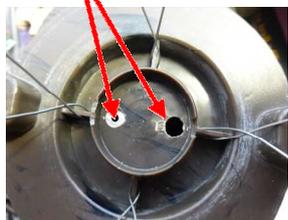
突起部



3-2. 取れた部品の取り付け

- ネジ止めに使われていたボスがなくなってしまったのでネジ止めを諦め代わりに四方のリブに穴を開けステンレス線（0.55mm）を通し胴体の内側に出します。

折れたボスの穴



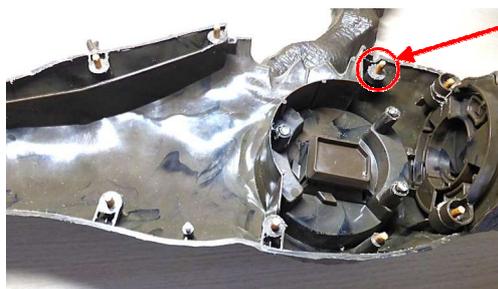
ステンレス線を胴体の内側に出す

- 押さえ側の部品にも穴を開けステンレス線を通して振じり締めます。



3-3. 胴体の貼り合わせ

- 以上で取れた部品の修理を終わり、分解した胴体を元の状態には貼り合わせます。
- 圧入されていたボスを切ってしまったので元のボスに穴を開け、ボスの代わりに竹棒をそれぞれのボスに差し込み（圧入）ます。
- 反対側の胴体のボスにも穴を開けておき組み合わせます。



竹棒（φ4.5mm程度）

- 薄刃のノコギリで切りましたが若干ですが合わせ目に隙間が残りました。



3-4. 仕上げ処理

- 合わせ目に残った隙間は僅かですが（許容範囲？）念のためパテを使って補修をしました。
- 使ったエポパテは白色なので硬化してから上にペイントを塗りました。



- 下の写真は、ペイントを施した状態です。



4. 完成

